

地球温暖化を防ぐため、または都市の交通	渋滞の激化を抑えるため、「自家用車は一家	に一台以下にするべきだ」という意見が述べ	られることがある。私はこの意見に反対であ	る。	確かに、地球温暖化や交通渋滞を防ぐため	に、自動車の絶対量を増やさないという考え	方は有効なものだと思う。自然環境と社会環	境の悪化は防ぐべきだろう。しかし、この主	張は、自動車以外の交通手段に恵まれている	大都市圏に住む住民に向けたものとしては適	当だと思われるが、他の交通手段に乏しい地	方の住民にとっては、自分たちの生活は無視	した受け入れがたい提案だと言えるだろう。	地下鉄など走らず、バスも一時間に一本しか	通らないような地方においては、自動車は一	家に一台どころか、成人に一人一台必要とさ	れている。一家に一台では、家族の一人が車	で仕事に行ってしまうと、残りの者たちは買	い物にも病院にも行けなくなるのだ。
---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-------------------

北海道や東北地方などでは、車がなければ
仕事にも買い物にも病院にも行けないという
ことは容易に想像がつく。鉄道が走っている
のはかなり限定されたエリアだけだし、その
他の広大な土地を移動するには、大人であれ
ば一人一台の車が欲しくなる。北海道や東北
に限らず、大都市圏の郊外へ一步出てしまえ
ば、実のところ状況はそれほど変わらない。
現代人は、地方にいても、あるいは地方にい
るからこそ、長距離を移動する手段を必要と
する。都会に比べて、自然環境に与える負荷
の量がそれほど高くない地方の住民が、都市
民が大量に放出する排気ガスや浪費する電力
の穴埋めに、保有する車の量を制限されると
いうのでは、筋が通らない。
以上の理由で、自動車の保有量を一家に一
台と制限するのは、大都市の住民に限るべき
だと私は考える。地方住民の生活に不可欠な
自動車も、制限させることは、現実的に不可
能であろう。